

奥嵯峨に、“古の佳人”の足跡を訪ねる！ 令和4年7月4日(月)

人の運命の不思議さ。思えば何処から来て何処へ去るとも不明のまま、人はこの世にある限り、何者かの手に握られた運命の糸に操られて、細やかな喜憂に心を躍らせたり沈ませたりながら、生涯の旅路を辿っていく。

賑やかに家族に囲まれ、あるいは相愛のふたりと肌温めあって暮らしていても、所詮、いつかはあの世への旅を、この世に訪れた旅のように、ひとり孤独に辿らねばならない。

もっと思いを潜めて見れば、手を携えあっている肉親や、友人や、同志という人々との連帯さえ夢幻かもしれないのであって、来しかた行く末、人はいつでもひとりであるのかもしれない。

人の世を旅に例えた昔の詩人は、どうにこの清々しい理を納得していたのではないか。

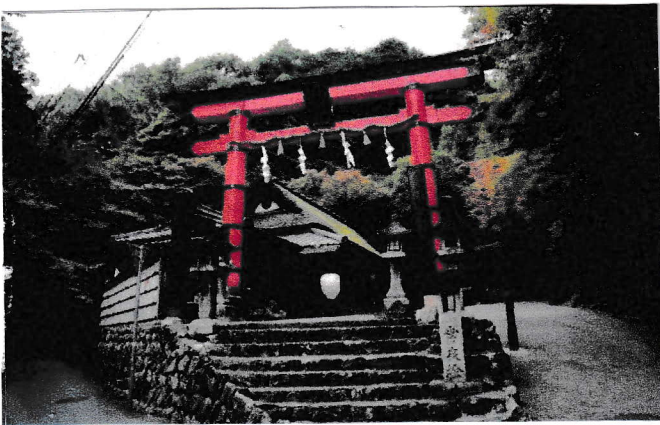
(中略)

ここは嵯峨野でも北嵯峨、上嵯峨、あるいは奥嵯峨と呼ばれる。釈迦堂以北を、昔から自然にそう呼び習わしているらしく、嵯峨でも、最も広い地域を占め、古刹、史跡、山陵、伝説の草庵といったものは、すべてこの中に含まれている。

「夏草や嵯峨に美人の墓多し」

と子規の詠んだ嵯峨も、奥嵯峨を指している。平家物語のヒロインたち、小督や、祇王、妓女、仏御前の墓の外に、愛宕街道を一の鳥居につき当り、昔の浮世絵からぬけ出たような鮎宿の「平野屋」、「つたや」に挟まれた山径を左にとって右に入ると、壇林皇后の御陵がある。嵯峨天皇の皇后嘉智子で、絶世の美女といわれ、奈良の法華寺十一面観音のモデルだとの説もある。

瀬戸内寂聴『古都旅情(美女の墓)』



愛宕神社一ノ鳥居越しに平野屋を望む

時節は溪谷のせせらぎが一人恋しい盛夏の候、趣のある洛北・奥嵯峨の鮎茶屋で“日本の匂”を心行くまで堪能し、地域に点在する“古の美女”の足跡を徒然なるままに訪ねるのも一興かと存じ上げますが、如何でしょうか？

令和の“元美女”たちのご参加、切に、切に希求しています。

水先案内人：牧 彰（会員）

- 参集地：阪急「茨木市」駅改札口 10時（時間厳守）
- 順 路：「茨木市」⇒阪急「嵐山」11：14発→清滝～ 清滝隧道～愛宕念仏寺～昼食・平野屋～嵯峨鳥居本重伝建地区～化野念仏寺～寂庵（外観）～祇王寺～滝口寺～有智子内親王陵～竹林の道～野宮神社～嵐電「嵐山」（自由解散）
- 拝観料：愛宕念仏寺 300円、化野念仏寺 500円、祇王寺 300円、滝口寺 300円
- 昼の宴：鮎茶屋「平野屋」“鮎づくし 10,120円（税・サービス料込み）” 12：30～14：30 京都市右京区鳥居本仙翁町 16 ☎075 - 861-0359
昔ながらを今に続けています。嵯峨の奥、愛宕神社一ノ鳥居畔に、江戸初め頃より茶店として、また、鮎の間屋を営んできました。今夏は鮎料理、秋は裏山で採れる松茸、冬は牡丹鍋、鹿、鯉こく鍋を、春は山菜、筍、湯豆腐などしております。庭を眺めながら、ゆっくりとした時をお愉しみ下さい。（平野屋 HP より）
- 定 員：24名（申込締切5月31日）
- 交通費：茨木市⇒嵐山 320円 嵐山⇒清滝 230円
- 申込先：「街 ing いばらき」代表・阪田浩（080-1436 - 9881） 会員外のご参加大歓迎

Tel&Fax/072 - 627-3480 E-mail/ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

※本会行事は、自由参加です。不測の事故・傷害などは、自己責任でご対応ください。